



第58回南国土佐皿鉢祭

ことしのテーマは「たまるかぁ!」。職人たちが作り上げた皿鉢料理が展示され、作品の繊細さとダイナミックさに多くの人が見入っていました。



市長と語る会を開催

「10年後・20年後の暮らし」をテーマに、若者・若手社会人・子育て世代の参加者8人が市長や副市長と共に活発な意見交換を行いました。



テーブルベンチ寄贈に対する表彰状の贈呈

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区から大旺新洋おまち多目的広場にパラソル付きテーブルベンチを4基寄贈いただき、表彰状を贈呈しました。

「もしも」のときの豆知識 13  
防災ひとくちメモ

小さな行動が大きな安心につながります

災害はいつ起きるか分かりません。台風や集中豪雨、線状降水帯の発生による風水害などの災害リスクに向き合う中、南海トラフ地震への備えも重要視されています。被害を最小限に抑えるために頼りになるのは「地域住民の力」です。

市内各地域の自主防災組織は、避難訓練、避難所開設訓練などの防災訓練や防災イベントの開催、防災資機材の整備、避難に支援が必要な方の支援方法の検討などに取り組んでいます。しかし、「訓練の参加者が少ない。もっと多くの人に参加し、知ってほしい。」といった声も耳にします。

5・6月は多くの地域で今年度の防災活動を話し合う総会が開かれます。訓練と聞くと、特別な技術や資格が必要と感ずるかもしれませんが、そうではありません。まずは多くの皆さんが参加し、経験することに大きな意味があります。地域で顔が見える関係性をつくることは、備えへの一番の近道。ぜひ、参加してみませんか。一人一人の小さな行動の積み重ねが、大きな安心につながります。

詳しくはこちら▶



【問い合わせ】地域防災推進課 ☎823-9040

work of kochi city  
市役所の推しゴト

みどり課 編

こんな仕事をしています

- 01 公園・緑地の整備
- 02 公園・緑地・街路樹の管理
- 03 公園・緑地の使用・占用許可

Check!

知っていますか  
公園愛護会

詳しくはこちら▶



公園・緑地等の清掃や除草などの日常的な管理は、近隣住民で結成された公園愛護会にご協力いただいています。

市内には、約700以上の公園や緑地があります

公園は地域住民の憩いの場です。公園の管理には、市だけでなく地域の皆さんの積極的な協力が必要です。そのため、市では公園愛護会の結成を呼び掛け、きれいで楽しい公園づくりを促進しています。新たに公園愛護会を結成される際は、みどり課へお問い合わせください。届け出や活動に対する交付金などの支援についてご説明します。



【問い合わせ】  
みどり課 ☎823-9469

COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、たばこの煙を主とする有害物質を長年吸い込むことが原因で、肺の気管支や酸素を取り込む肺胞で炎症などが起き、気管支が狭くなったり、肺胞の壁が壊れたりして、呼吸がしにくくなる病気です。全国には500万人を超える患者がいると推定されていますが、令和5年の調査によると治療を受けているのは約38万人で、多くの方が診断や治療を受けていないのが現状です。令和5年度に実施した「高知市健康づくりアンケート」でも約5割の人がCOPDを知らないと答えています。COPDは気付かないうちに進行し、感染症などをきっかけに急に悪くなる可能性がありますので、早めにCOPDの可能性を確認しておくことが大切です。

COPDは、歩行時や坂道・階段での息切れ、長引く咳や痰などの症状が見られ、初期では無症状の方もいます。咳や痰が絡みややすいという症状があっても、風邪や年齢のせいにして、見過ごされてしまいがちです。COPDに気付かないまましていると、肺の機能が低下し、軽い運動や階段の上り下りで息切れするようになり、身体を動かすことが辛いと感じ始めると、外出を避け、運動機能が低下する悪循環に陥ります。重症化すると、安静時でも息切れし、酸素吸入器が必要になる場合もあります。また、喫煙経験がある方だけでなく、受動喫煙でも発症する可能性があります。

自分と大切な人の未来を守るために、禁煙にチャレンジしてみませんか。また、気になる症状がある場合は、早めに医療機関で相談しましょう。健康増進課HPでは、COPDの可能性を確認できるサイトなどを紹介しています。自身の健康管理はもちろん、大切な家族や周りの人の健康を守る一人一人の行動が、誰もが健やかに暮らせる持続可能なまちづくりへとつながります。

【問い合わせ】健康増進課 ☎80338005



くらしの中のSDGs

Vol.38

シイオーピーデー  
COPDとたばこ

今月のテーマ



【ゴール3】  
すべての人に健康と福祉を

こうちミュージアムネットワーク(ハリーコラム)

歴史万華鏡

(160回)

隠れた水路と石垣から見る大名墓の歴史

高知県埋蔵文化財センター  
調査員 福永 素久

高知城より南、筆山にある山内家墓所は、土佐藩山内家の歴代藩主が埋葬されている墓所である(明治期東京で死去した十五代を除く)。墓所は大名墓として埋葬の様子がよくわかることから平成二十八(二〇一六)年に国史跡に指定された。しかし、長年の風化に伴い、墓域にある石垣の崩落や石造物の劣化が各所で見られるようになった。

高知県埋蔵文化財センターは、墓所を管理する土佐山内記念財団の委託を受けて令和二(二〇二〇)年度から石垣修理に伴う調査を行った。今回の調査は令和七(二〇二五)年十一月から令和八(二〇二六)年二月にかけて、石垣の崩落が特に著しい三代・五代藩主の墓がある墓域四と、八代・九代藩主の墓がある墓域九との境にあたる石垣修理の現場で実施した。

墓域九側の調査では解体時、内側に未発見の石垣があることが判明した。さらに解体が進んだ後の調査で、水路(暗渠)の開口部が見つかった。次に墓域反対側にある墓域四側の調査では、石垣内部から墓域九側の開口部の反対側で水路跡を見つけた。この遺構は、墓域四側で集まった水が水路を通して墓域九側へ流れたものと考えられる。

暗渠が架かる南側では、東西にまたがって水路を保護するための石列を検出した。また発見した石垣では、暗渠が通る真上にある築石だけ崩落が激しいことがわかり、その原因として水路による影響が大きいと考えられる。

また、調査では石垣の上にあった塀の部材に使われたと思われる瓦や鉄素焼きの器が出土した。瓦の中には、生産者がわかる刻印が彫られたものや、彫られた文字から推された場所を示すと考えられる瓦も見つかった。

以上の調査成果により、山の斜面と谷筋の限られた地形で墓所を造成した工事の一端を垣間見ることができた。このように地中に隠れた水路や石垣からは、藩主の死去に伴い、早急に工事を進めなければいけなかった当時の人々の苦勞をうかがうことができる。今回の調査の結果が、墓所の保護と活用につながればと思う。



墓域九側から見た石垣